

神経精神

Neuropsychiatry

ユニット責任者： 神経精神科学 教授 古茶 大樹

ブロック名		期間	ブロック責任者
第2ブロック	神経精神科②	11月13日 ~ 11月16日	古茶 大樹

1. ユニット概要・学習内容

人の心（精神）は常に二つの視点から理解できる。一つは心そのものをありのままに理解しようとする心理的側面、もう一つは心を脳の作用として見る脳科学的側面である。二つの視点は一長一短があり、何を対象とするかによって向き不向きがある。このユニットでは、主な精神疾患の症候、診断、治療を学ぶ。脳科学的側面から理解できるものについては、その病態生理を学ぶ。具体的には、統合失調症、気分障害、認知症をはじめとした老年精神疾患、発達障害を中心とした乳幼児・児童思春期の精神疾患、ストレス関連障害と神経症性障害を網羅的に学習し、精神医学の生物学的・心理社会的アプローチについて体系的に学ぶ。また身体科の患者が抱える精神科的な問題について、精神科と身体科が相談（コンサルテーション）・連携・患者さんへの橋渡し（リエゾン）をしていくコンサルテーション・リエゾン精神医学に関しても理解を深める。

2. 到達目標

- 1) 精神科医療の法と倫理に関する必須項目（精神保健福祉法、インフォームド・コンセント）を説明できる。
- 2) 脳科学的検査について説明することができる。
- 3) 精神科リハビリテーションについて概説することができる。
- 4) 統合失調症の症候と診断、治療を説明できる。
- 5) 向精神薬の作用と副作用について説明できる。
- 6) うつ病・双極性障害の症候と診断、治療を説明できる。
- 7) コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。
- 8) 物質依存と乱用について概説することができる。
- 9) 認知症を含めた老年期の代表的な精神障害について概説できる。
- 10) 睡眠障害について概説することができる。
- 11) ストレス関連障害・神経症性障害の症候と診断、治療を説明できる。
- 12) 発達障害を含めた乳幼児と児童思春期の精神障害について概説できる。

3. 学習上の注意点

あらかじめ学んでおく書籍として特に指定するものはないが、日頃から健康や医学の問題に関心を持ち、家庭医学書や新聞・書籍などを通じて心身の健康についての基礎知識を養っておくことが望ましい。

4. 教科書・参考書

教科書：『標準精神医学』野村総一郎（医学書院）

参考書：『精神医学入門』西丸四方（南山堂）・・・（書評）精神医学全般が平易なわかりやすい文体で記述され、新しく精神医学を学ばれる方々に勧められる。

5. 成績評価

下記の評価項目を総合して総括評価とする。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	70（％）	後期期末試験中に実施する。
TBL等	1	20（％）	
授業態度	-	10（％）	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
神経精神科学	教授	古茶 大樹	木曜 13時-17時	医学部本館2階 神経精神科医局	内戦 3202 mail: kocha

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略